

令和8年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	理科	年次	1 年次
講座名	化学基礎	単位数	2
授業形式・概要等	必修科目です。 「物質」そのものを学ぶ学問である化学の基礎を築きます。座学が中心で実験・観察も行います。		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって実験・観察などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な観念や原理・法則を理解し、化学的な見方や考え方を身につける。		
使用教材	教科書：高等学校 改訂新化学基礎（第一学習社） 副教材：ネオパルノート化学基礎		
学習のアドバイス 注意事項等	①毎週の予習復習（特に復習）が肝心です。教科書を読み込むことはもちろん、授業の進度に合わせて問題演習に取り組みましょう。 ②授業後半より<u>数値を扱った内容</u>が多くなるので、数学的な知識・理解も必要になります。数式と単位に注目して学習しましょう。		

評価について

観点	規準	方法
①知識・技能	基本的な概念や法則を身につけ、活用できるか。実験・観察の技能を修得し、自然現象を化学的に探究する方法を身につけられたか。	単元テスト、実験操作の手順など
②思考・判断・表現	事象を論理的に考え、分析的・総合的に考察できているか。	単元テスト、実験レポートの作成と発表など
③主体的に学習に取り組む態度	様々な物質とその性質について、実験や観察などを通して意欲的に探究するとともに興味・関心をもっているか。	単元テスト、ワーク点検、日常の授業へ取り組む姿勢など

学習計画

月	学習内容（単元）	評価の規準と観点
4	1 章 物質の構成 第 1 節 物質とその構成要素 物質の分離、物質を構成する元素、元素の確認	単元テスト（観点①②）
5	物質の三態、原子のなりたち、 同位体と利用、電子配置、周期表	単元テスト（観点①②） ワーク点検（観点③）
6	第 2 節 化学結合 イオン、イオン結合、イオンからなる物質、共有結合、 分子の極性、分子間に働く力、	単元テスト（観点①②）
7	分子からなる物質、共有結合の結晶、金属と金属結合	単元テスト（観点①②） ワーク点検（観点③）
8	2 章 物質の変化 第 1 節 物質質量と端額反応式 原子量・分子量・式量、物質質量と粒子数・質量・体積、 溶解度と濃度、	単元テスト（観点①②）
9	化学反応式、化学反応式と量的関係、過不足のある反応	単元テスト（観点①②） ワーク点検（観点③）
10	第 2 節 酸・塩基とその反応 酸と塩基、酸と塩基の強弱、水素イオン濃度と pH、	単元テスト（観点①②） ワーク点検（観点③）
11	pH の測定、	
12	中和と塩、中和の量的関係、中和滴定と滴定曲線	
1	第 3 節 酸化還元反応 酸化と還元、酸化数、酸化剤と還元剤	単元テスト（観点①②） ワーク点検（観点③）
2	金属のイオン化傾向、反応性	
3	電池、電気分解	
	2 年次にむけて	年間を通じて、実験を行った 際に操作手順や実験レポート を観点①②③に沿って評価し ます

令和8年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	生物基礎	年次	2
講座名	生物基礎	単位数	2
授業形式・概要等	座学が中心ですが、観察や解剖などといった実験も行います。生物に対する基本的な知識、技能を身につけ、科学的に生物の世界を探究する力を養います。		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理、法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。		
使用教材	教科書：改訂新編生物基礎（東京書籍） 副教材：ニューサポート改定新編生物基礎（東京書籍）		
学習のアドバイス 注意事項等	①基本的な知識をまずはしっかりと身につけるため、ワークを用いて繰り返し復習を行いましょう。 ②生物は「暗記科目」と思われがちですが、「語句の暗記」＝「勉強」ではありません。習得した知識を用いて生物の現象を「説明できる」ことを目指しましょう。 ③小テストを行うことがありますので、家庭学習を行い、復習しましょう。		

評価について

観点	規準	方法
①知識・技能	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	単元テスト レポート課題 小テスト
②思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	単元テスト レポート課題
③主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	小テスト 課題提出

学習計画

月	学習内容（単元）	評価の規準と観点
4	1編 生物の特徴 1章 多様性と共通性 1節 多様性と共通性とは 2節 細胞にみられる多様性と共通性	・生物の共通性と多様性について、細胞とエネルギーの関わりについて関心をもち、意欲的に探究しようとしている。（観点①・③） ・生物は多様であっても、共通の性質や構造があることや、光合成によって光エネルギーを用いて有機物が作られ、呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されていることを考察し、導き出した考えを表現できる。（観点①・②） ・生物の共通性と多様性について、生命活動に必要なエネルギーと代謝についての観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できる。（観点①・②・③） ・生物は多様でありながら共通性を持っていることや、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解し、知識を身に付けている。（観点①・③）
5	2章 生命活動とエネルギー 1節 生命活動を支える代謝 2節 代謝を進める酵素 3節 生体内のエネルギー変換 4節 葉緑体とミトコンドリアの起源	
		・単元テスト（1編1章～2章）5月末～6月初め（観点①・②）

6	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子 1節 DNAの構造 2節 DNAとゲノム 2章 遺伝情報の分配 1節 細胞分裂におけるDNAの複製分配 2節 DNAの倍加 3節 DNAの正確な複製 3章 遺伝情報とタンパク質合成 1節 DNAとタンパク質の合成 2節 遺伝子の発現と生命現象	・ 遺伝情報と DNA、遺伝情報の分配、遺伝情報とタンパク質について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。（観点①・②） ・ DNA の構造が遺伝情報を担い得る特徴を持つこと、分裂前後で遺伝情報の同一性が保たれていること、タンパク質合成の際に塩基配列がアミノ酸配列に置き換わることを考察し、導き出した考えを表現できる。（観点②） ・ 遺伝子情報と DNA、遺伝情報の分配、遺伝情報をタンパク質の合成について観察、実験、実習（モデル実験）などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できる。（観点①・③） ・ 遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴、DNA の複製・分配により遺伝すること、DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることについて理解し、知識を身につけている。（観点①・③） ・ 単元テスト（2編 1章～3章）8月末～9月初め（観点①・②）
9 10 11	3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境の維持 1節 体内環境と体液の循環 2節 恒常性と血液 3節 体内環境を調節する器官 2章 体内環境を保つしくみ 1節 自律神経系による調節 2節 ホルモンによる調節 3節 自律神経系と内分泌系による協同作用 3章 体内環境を守るしくみ 1節 免疫のシステム 2節 免疫とヒト	・ 体内環境そのものや維持の仕組み、免疫について関心を持ち意欲的に探究しようとしている。（観点①・③） ・ 恒常性において、動物の体液濃度が自律神経系とホルモンの作用によって調整される仕組みや、病原菌などの異物を認識して排除する仕組みを考察し、導き出した考えを表現できている。（観点①・②） ・ 体内環境そのものや維持の仕組み、免疫について観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できる。（観点①・②・③） ・ 単元テスト（3編 1章～2章）10月初め（観点①・②） ・ 体内環境の維持に自律神経系とホルモンが関わっていることや、免疫とそれに関わる細胞のはたらきについて理解し、知識を身につけている。（観点①・③） ・ 単元テスト（3編 3章）11月中旬（観点①・②）
12 1 2 3	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と遷移 1節 生態系 2節 植生と生態系 3節 植生の遷移 2章 バイオームとその分布 1節 地球上の植生分布 2節 さまざまなバイオーム 3章 生態系とその保全 1節 生態系でのエネルギーの流れ 2節 生態系での物質の流れ 3節 生態系のバランス 4節 生物多様性の保全	・ 植生と遷移、気候とバイオームについて関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。（観点①・③） ・ 陸上の植生が移り変わっていくこと、気温と降水量の違いで地球上に様々なバイオームが成立していることを考察し、導き出した考えを表現している。（観点①・②） ・ 植生と遷移について、気候とバイオームについて観察、実験、資料収集などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できる。（観点①・③） ・ 陸上の植生が移り変わっていくこと、気温と降水量の違いで地球上に様々なバイオームが成立していることを理解し、知識を身につけている。（観点①） ・ 生態系と物質循環、生態系のバランスについて関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。（観点③） ・ 生態系の物質移動に伴ってエネルギーが移動することや、生態系のバランスについて考察し、導き出した考えを表現している。（観点②） ・ 生態系と物質循環、生態系のバランスについて観察、実験、資料収集などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できる。（観点①・③） ・ 生態系の物質移動に伴ってエネルギーが移動することや、生態系のバランスについて理解し、知識を身につけると同時に、生態系保全の重要性について認識できている。（観点①） ・ 単元テスト（4編 1章～3章）2月末（観点①・②）

令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	年次	2
講座名	化学	単位数	4
授業形式・概要等	理系大学(看護大を含む)・高等看護学校受験者は受講してください。莫大な情報量を学習することになります。		
到達目標	化学基礎よりも複雑な理論化学を学ぶ。無機物質・有機化合物の主な性質と反応性をしっかりとした知識として蓄えます。		
使用教材	教科書：「新編 化学」数研出版 副教材：「リードLightノート化学」数研出版		
評価	単元テスト、実験レポート、ワーク点検などで評価します。		
学習のアドバイス 注意事項等	① 『理論化学』・『無機化学』・『有機化学』について学習します。 ② 化学基礎の知識があれば、理解がしやすい分野があります。 ③ 授業中に質問します。答えられなくても、自分で考えることが重要です。		

評価の観点と評価規準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や法則を身につけ、活用できるか。実験・観察の技能を修得し、自然現象を化学的に探究する方法を身につけられたか。単元テスト、実験操作の手順などで評価。	事象を論理的に考え、分析的・総合的に考察できているか。単元テスト、実験レポートの作成などで評価。	様々な物質とその性質について、実験や観察などを通して意欲的に探究するとともに興味・関心をもっているか。単元テスト、ワーク点検、日常の授業へ取り組む姿勢などで評価。

学習計画

月	学習内容（単元名）	評価のポイント（観点）
4	第1編 物質の状態 第1章 個体の構造	<年間を通して> 単元テスト（観点①②）
5	第2章 物質の状態変化	
6	第3章 気体 第4章 溶液	
7	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	単元テスト（観点①②） ワーク点検（観点③）
8	第2章 電池と電気分解	単元テスト（観点①②）
9	第3章 化学反応の速さとしくみ 第4章 化学平衡	単元テスト（観点①②） ワーク点検（観点③）
10	第3編 無機物質 第1章 非金属元素	単元テスト（観点①②）
11	第2章 金属元素（I） 典型元素	

1 2	第 3 章 金属元素（Ⅱ） 遷移元素	単元テスト（観点①②） ワーク点検（観点③）
1	第 4 編 有機化合物化 第 1 章 有機化合物の分類と分析	
2	第 2 章 脂肪族炭化水素	単元テスト（観点①②）
3	第 3 章 アルコールと関連物質 第 4 章 芳香族化合物	単元テスト（観点①②） ワーク点検（観点③） 年間を通じて、実験を行った際に操作手順や実験レポートを観点①②③に沿って評価します

令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	年次	3
講座名	地学基礎（クラスコード）	単位数	2
授業形式・概要等	必履修科目の1つです。 「宇宙」、「地球の構成」、「気象」という大きな世界を学びます。		
到達目標	宇宙の成り立ちと地球の構成を学びつつ人間の小ささを知り、自身の世界観と教養を深め、科学的な見方や考え方を身につけます。		
使用教材	教科書：「地学基礎 改訂版」（実教出版） 副教材：「ビジュアルプラス地学基礎ノート 改訂版」（実教出版）		
評価	各単元終了後の単元テストや、実験・観察の技能・レポート、普段の授業や課題への取り組み、小テストをもとに総合的に評価をつけます。		
学習のアドバイス 注意事項等	自然科学を学び世界全体をみる巨視感を養って欲しいです。人間という小さな存在をはるかに超えた大宇宙、悠久の歴史を経てきた恐竜の化石、人間が操ることのできない気象現象、これらを学び大きな世界観に達することを目指して欲しいです。		

評価の観点と評価規準

① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。 自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

学習計画

月	学習内容（単元名）	評価のポイント（観点）
4	第1章 地球の構成と運動	・地球表面の7割をおおう海洋にも、層構造があることを学ぶ。（観点①・③） ・岩石には火成岩、堆積岩、変成岩があること、またその分類や成因、性質などを理解する。（観点①・②） - 火山と地震といった地殻変動を統一的に説明するプレートテクトニクスについて理解する。（観点①・②）
5	1節 地球の構造 1 地球の形と大きさ 2 地表のようす 3 地球内部の構造 2節 プレーートの運動 1 プレートテクトニクス 2 大地形の形成と地質構造 3節 地震と火山 1 地震活動 2 火山活動	
6	第2章 大気と海洋	
	1節 大気の構造と運動 1 高度による気圧・気温の変化 2 大気の層構造	
		第1章単元テスト5月中旬～下旬予定

7	3 大気中の水とその状態 4 大気の状態 2節 大気の大循環 1 地球のエネルギー収支 2 大気のエネルギー収支 3 大気大循環 4 温帯低気圧と熱帯低気圧 3節 海洋の構造と海水の運動 1 海洋の層構造 2 海水の運動と循環 4節 日本の四季の気象と気候 1 気象と気候 2 日本の四季	・太陽放射と地球放射によって、地球全体のエネルギー収支のバランスをとっていること、大気中にある温室効果ガスの役割、気温の日変化による風の変化について理解する。（観点①） ・気象と気候の違いを理解する。日本周辺にある気団とそれによる季節変化との関係を知る。（観点①・③） 第2章単元テスト7月夏休み前予定 （観点①・②）
8	第3章 宇宙、太陽系と地球の誕生	・宇宙誕生から生命の出現までの流れを概観する。（観点①） ・太陽系の広がりや太陽系の天体の存在を理解する。（観点③） ・太陽の光球面や太陽大気で起こっている現象、太陽の特徴を理解する。（観点②・③）
9	1節 宇宙の誕生 1 宇宙の姿 2 天体の距離と光の速さ 3 ビッグバンから天体の誕生まで 2節 太陽の誕生 1 現在の太陽 2 太陽の誕生 3節 惑星の誕生と地球の成長 1 太陽系の姿 2 太陽系の誕生と惑星の分類 3 地球の誕生と成長	・太陽の明るさや質量、大きさなどの特徴を理解する。（観点①・③） ・宇宙誕生後、ビッグバンにより宇宙の膨張が始まり、38万年後には宇宙の晴れ上がりが起こったことを知る。（観点①）
10	第4章 古生物の変遷と地球環境の変化	第3章単元テスト10月上旬予定 （観点①・②） ・地層がどのようにしてできるのか、地層の重なりが時間的経過を示していることを理解する。（観点①・②） ・多様な生物が出現した古生代から、は虫類が大繁栄したのち大量絶滅の起こった中生代について理解する。（観点①・③）
11	1節 地層のでき方 1 地層のでき方 2 堆積岩 3 地層を調べる 2節 化石と地質時代の区分 1 化石 2 地層の対比と地質時代の区分 3節 古生物の変遷と地球環境 1 初期生命と大気の変化 2 多様な生物の出現と脊椎動物の発展 3 哺乳類の繁栄と人類の発展	・光合成生物の出現による酸素の増加やオゾン層の形成、オゾン層の形成による地表での紫外線の減少と生物の陸上進出について理解する。（観点①・③）
12	第5章 地球の環境	第4章単元テスト11月中旬予定 （観点①・②） ・地球環境の変化を見だし、その仕組みを理解させるとともに、それらの現象と人間生活との関わりについて理解する。（（観点①・②）） ・地球温暖化、オゾン層破壊、エルニーニョ現象などについて仕組みを理解させるとともに、人間生活に関連していることを理解する（観点③）
1	1節 日本の自然環境 1 日本列島がつくる自然の特徴 2 さまざまな自然災害と防災・減災 2節 地球環境の科学 1 人間活動がもたらす環境問題と自然変動 2 気候変動と地球温暖化 3 地球環境と物質循環 4 地球環境に与える人間生活の影響	第5章単元テスト 1月下旬予定 （観点①・②）

令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

教科名	生物	年次	3
講座名	生物	単位数	4
授業形式・概要等	座学が中心ですが、観察や解剖といった実験も行います。生物に対する基本的な知識、技能を身につけるのはもちろんのこと、受験に必要な力を付けることも目指します。		
到達目標	生物や生物現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。		
使用教材	教科書：生物（東京書籍） 副教材：ニューアチーブ生物（東京書籍）		
評価	各単元終了後の単元テストや、実験・観察の技能・レポート、普段の授業や課題への取り組み、小テストをもとに総合的に評価をつけます。		
学習のアドバイス 注意事項等	①受験で必要とする者向けに、<u>非常に速い進捗で進みます</u>。毎日の予習復習が肝心です。<u>教科書を読み込むことはもちろん、授業の進捗に合わせて各自で問題演習に取り組ま</u>しょう。進学に必要な者は、副教材が基礎的な内容で受験レベルには対応していないので、各自必要に応じてさらなる演習に取り組まましょう。 ②膨大な領域の内容を学習するので、既習領域との関連性を意識しながら知識を整理してきましょう。生物基礎の知識が必要となる分野もありますので、適宜復習にも取り組みましょう。		

評価について

観点	規 準	方 法
①知識・技能	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けているか。	提出物 単元テスト 小テスト
②思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しているか。	レポート・発表 単元テスト
③主体的に取り組む 態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けているか。	授業態度 実験・観察への取り組み レポート・ワークシート

学習計画

月	学習内容（単元名）	評価の規準と観点
4	1 編 生物の進化 1 章 生命の起源と進化	・生命の起源や生物が進化してきた道筋と進化の仕組みの関係、また生物はその系統に基づいて分類できることに関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。（観点①・②） ・生命の起源や生物が進化してきた道筋と進化の仕組みの関係、また生物はその系統に基づいて分類できることについて考察し、導き出した考えを表現できる。（観点②・③） ・生命の起源や生物が進化してきた道筋と進化の仕組みの関係、また生物のその系統に基づいた分類について資料収集などを行い、それらの過程や結果を的確に記録、整理できる。（観点①・②） ・生命の起源や生物が進化してきた道筋と進化の仕組みの関係、また生物はそ
5	2 章 遺伝子の変化と進化の仕組み	
	3 章 生物の系統と進化	

		の系統に基づいて分類できることを理解し、知識を身につけている。 (観点①) ・5月末に単元テスト(第1編について) (観点①・②) 細胞小器官など、細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴、及び生命現象におけるタンパク質や呼吸、光合成、窒素同化などの代謝の重要性に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。(観点①・③) ・6月末に単元テスト(第2編1章) (観点①・②) ・細胞の内部構造とそれを構成する物質、及び生命現象におけるタンパク質のはたらき、呼吸、光合成、窒素同化などの代謝の仕組みを考察し、導き出した考えを表現できる。(観点①・②) ・生命現象と代謝の関わりについての観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できる。(観点②・③) ・細胞小器官など、細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴、及び生命現象におけるタンパク質の重要性、呼吸、光合成、窒素同化などの代謝の仕組みを理解し、知識を身につけている。(観点①・②)
6	2編 生命現象と物質 1章 細胞と物質	
7	2章 代謝とエネルギー	
8	3編 遺伝情報の発現と発生	・夏休み前に単元テスト(第2編2章) (観点①・②) ・DNAの複製の仕組み、遺伝子の発現とその調節の仕組み、遺伝情報の変化及びバイオテクノロジーに関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。(観点①・②)
9	1章 遺伝情報とその発現 2章 発生と遺伝子発現 3章 遺伝子を扱う技術	・DNAの複製の仕組み、遺伝子の発現とその調節の仕組みを考察し、導き出した考えを表現できる。(観点②・③) ・DNAの複製の仕組み、遺伝子の発現とその調節の仕組みについての観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できる。(観点①・②・③) ・DNAの複製の仕組み、遺伝子の発現とその調節の仕組み、遺伝情報の変化及びバイオテクノロジーを理解し、知識を身につけている。(観点①・②) ・減数分裂から受精の過程を経て多様な遺伝的な組合せが生じること、動植物の配偶子形成や受精、発生・分化の過程に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。(観点①・③) ・減数分裂や動植物の配偶子形成や受精、発生・分化の過程を考察し、導き出した考えを表現できる。(観点①・②) ・減数分裂や動植物の配偶子形成や受精、発生・分化の過程についての観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できる。(観点①・②) ・減数分裂から受精の過程を経て多様な遺伝的な組合せが生じること、動植物の配偶子形成や受精、発生・分化の過程について理解し、知識を身につけている。(観点①)
10	4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激 2章 動物の行動	・9月末に単元テスト(第3編) (観点①・②) ・動植物が外界の刺激を受容し、神経系、ホルモンや光受容体の働きを介してそれに反応する仕組みと、動物の行動や植物の環境変化に反応する仕組みに関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。(観点①・③)
11	3章 植物の環境応答	・動植物が外界の刺激を受容し、それに反応する仕組みについて考察し、導き出した考えを表現できる。(観点①・②) ・動植物が外界の刺激を受容し、それに反応する仕組みについての観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できる。(観点①・②) ・動植物が外界の刺激を受容し、神経系、ホルモンや光受容体の働きを介してそれに反応する仕組みと、動物の行動や植物の環境変化に反応する仕組みについて理解し、知識を身につけている。(観点①・②)
12	5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集 2章 生態系の物質生産と物質循環 3章 生態系と人間生活	・11月末に単元テスト(第4編) (観点①・②) ・生態系の成り立ちや多様性、物質生産やエネルギー効率、生態系へ与えられる影響と要因について関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。(観点①・③) ・生態系の成り立ちや多様性、物質生産やエネルギー効率、生態系へ与えられる影響と要因について考察し、導き出した考えを表現できる。(観点②) ・生態系の成り立ちや多様性、物質生産やエネルギー効率、生態系へ与えられる影響と要因について観察、実験、資料収集などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できる。(観点②) ・個体群とその変動、生物群集の成り立ちと多様な種が共存する仕組みについて、生態系における物質生産とエネルギー効率及び生物多様性に影響を与える要因について理解し、知識を身につけている。(観点①・③)
1		・1月終わりに単元テスト(第5編) (観点①・②)

令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	年次	3
講座名	化学研究	単位数	3
授業形式・概要等	国家資格「危険物取扱者丙種」試験合格、「危険物取扱者乙種第4類」試験合格できる「物理学」「化学」を中心とした知識の習得を目指します。理科の知識以外にも「消防法」を学びます。		
到達目標	7月26日の「危険物取扱者丙種」試験への合格を目指します。 2月7日の「危険物取扱者乙種第4類」試験へ合格できる知識の習得を目指します。		
使用教材	教科書：危険物取扱者テキスト丙種(実教出版) 危険物取扱者テキスト乙種4類(実教出版)の2冊		
評価	知識・技能を確認する模擬試験や単元テスト、思考・判断・表現を確認する実験レポート、「危険物取扱者丙種」試験の合格を評価します。		
学習のアドバイス 注意事項等	化学知識を体系的に学んで行きながら、危険物取扱者の資格取得を目指してください。資格取得は簡単ではありません。しかし、一度取得すると自分の履歴書に記載されます。一生懸命に努力しましょう。		
危険物取扱者の国家試験費用について	・危険物取扱者丙種試験の受験料は4,200円、合格者は免状申請手続き費用として2,900円かかります。<u>※免許状を申請しなければ履歴書に記載できません。</u> ・危険物取扱者乙種試験の受験料は5,300円、合格者は免状申請手続き費用として2,900円かかります。<u>※免許状を申請しなければ履歴書に記載できません。</u> ・丙種の受験料4,200円を一括して集めます。 ・乙種第4類の受験は希望者のみとします。希望者は申し込みを各自で行ってください（申し込み時期の前に周知します）。 ・試験日 7月26日（日）危険物取扱者丙種試験（全員） 江差町 2月 7日（日）危険物取扱者乙種第4類試験（希望者のみ） 函館市		

評価の観点と評価規準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
保安活動：危険因子を認識し、取り除く保安活動を徹底する。 消火活動：各種危険物に適応する消火剤を認識し安全に使えるようにする。	危険予知：危険な状態になりうるものを予知し、不用意に近づかない判断力を養う。 考察：実験を通して、科学的な現象を考察する力を養う。	安全第一：危険物を取り扱う心構えは安全第一にあるという態度を養う。

学習計画

月	学習内容（単元名）	評価のポイント（観点）
4	受験案内 使用教科書は危険物取扱者テキスト丙種 第1編 燃焼及び消火に関する基礎知識 LESSON 1-1～1-5 燃焼に関する基礎知識 LESSON 1-6～1-7 消火に関する基礎知識	単元テスト(観点①②)
5	第2編 危険物の性質並びにその火災予防及び、消火の方法 LESSON 2-1～2-6 危険物の性質及び貯蔵・取扱・消火方法 LESSON 2-7 第4類危険物の事故例	単元テスト(観点①②)
6	第3編 危険物に関する法令 LESSON 3-1 危険物取扱者制度 LESSON 3-2 危険物 LESSON 3-3 指定数量 LESSON 3-4 製造所等の設置・許可申請 LESSON 3-5 予防規程と定期点検	

7	LESSON 3-6 保安距離と保有空地 LESSON 3-7 移動タンク貯蔵所(タンクローリー) LESSON 3-8 給油取扱所(ガソリンスタンド) LESSON 3-9 その他の製造所等の設置基準 LESSON 3-10 貯蔵・取扱いの基準 LESSON 3-11 移送・運搬の基準 LESSON 3-12 標識・掲示板, 消火設備, 警報設備	単元テスト(観点①②)
	模擬試験	模擬試験(観点①②)
	「危険物取扱者丙種」試験受験	危険物取扱者丙種試験 (観点①②)
	8 使用教科書は危険物取扱者テキスト乙種4類 第1編 危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法 LESSON 1-1 危険物の分類 LESSON 1-2 第4類危険物の性質と火災予防・消火方法	
9	LESSON 1-3～1-8 危険物の性質, 危険性 LESSON 1-9 事故例	単元テスト(観点①②)
10	第2編 基礎的な物理学及び基礎的な化学 LESSON 2-1 物質の三態と状態変化 LESSON 2-2～2-5 物理学に関する基礎知識	
11	LESSON 2-6～2-12 化学に関する基礎知識 LESSON 2-13～2-15 燃焼に関する基礎知識 LESSON 2-16～2-17 消火に関する基礎知識	実験レポート(観点②③) 単元テスト(観点①②)
12	第3編 危険物に関する法令 LESSON 3-1 危険物・指定数量 LESSON 3-2 製造所等の設置・許可申請 LESSON 3-3 予防規程・定期点検 LESSON 3-4 危険物取扱者制度 LESSON 3-5 保安距離・保有空地 LESSON 3-6 製造所の基準	
1	LESSON 3-7 貯蔵所の基準 LESSON 3-8 取扱所の基準 LESSON 3-9 貯蔵・運搬・標識 LESSON 3-10 消火設備	単元テスト(観点①②)
	模擬試験	模擬試験(観点①②)
	放射線について	
2	危険物取扱者乙種第4類試験受験(希望者のみ) 第4類危険物の詳細・まとめ	